

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	在宅医療の推進には 24 時間体制の訪問看護ステーションの労働環境の改善が必要～JA 長野厚生連訪問看護ステーション横断調査～
日 時	平成 25 年 3 月 30 日 11 : 50～12 : 00
会 場	第 8 会議室
座 長	放送大学 田城 孝雄先生
演 者	JA 長野厚生連佐久総合病院・小松 裕和先生
企画趣旨	<p>【背景】 在宅医療の推進にあたっては 24 時間体制の訪問看護ステーションの存在は必要不可欠である。しかし、24 時間体制の訪問看護ステーションの労働環境やメンタルヘルスを調査した研究は少なく、24 時間体制の訪問看護ステーションの普及にあたって根拠となるデータが求められている。</p> <p>【方法】 我々は 2012 年 3 月に長野県厚生連の 19 か所の訪問看護ステーションの全訪問看護師を対象として、自記式アンケート調査による労働環境の調査を行った。基本属性として事業所属性、訪問看護師属性を調査し、暴露として拘束業務従事の有無、アウトカムとして睡眠障害、CESD を用いたうつ病得点、主観的不健康、職場満足度、訪問看護継続困難感、交通事故未遂・既遂を調査した。</p> <p>【結果】 19 事業所で 136 名中 133 名からの回答が得られた（回収率 97.8%）。18 事業所において 24 時間対応体制加算をとっており、常勤看護師数は平均 6.0 人、1 チーム当たりの拘束看護師数は平均 4.0 人、1 チーム当たりの患者数は 104.9 人であった。訪問看護師の基本属性では 40 代以上が 73.7%、30 分以上の通勤者 14.3%、子育て中は 83.5%、介護中は 15.0%、拘束業務従事者は 74.4%、平日夜間は平均 5.5 回、週末・休日は平均 2.5 回の拘束業務を行っていた。メンタルヘルスは、睡眠障害が 40.6%、うつ病基準合致は 42.9%、訪問看護継続困難は 12.1%、交通事故未遂は 45.9%であった。また、拘束業務従事者においては睡眠障害、うつ病、交通事故未遂が有意に高くみられた。</p> <p>【考察】 中規模～大規模の訪問看護ステーションであってもメンタルヘルスアウトカムは悪く、特に拘束業務従事者において有意にその割合が高かった。地域の在宅医療の推進には、24 時間体制の訪問看護ステーションが安定継続できるような拘束業務の負担を軽減する取り組みを支援しなければならない。</p>